

小牧市子ども・子育て支援事業計画実績報告における評価方法の改善について

■ 30年度会議における意見

- ・計画数値が記載されない事業は自己評価の判定根拠が見えにくいため、目標・実績・評価の関係性が分かりやすい記述が望ましい。
- ・実績報告における自己評価の方法について、児童クラブ等、実際に現地を見て評価をすることが望ましい。困難な場合でも、ヒアリングなど可能な範囲で情報収集に努めてほしい。
- ・量の議論だけではなく、質（中身）についても、この実績報告の意見欄や備考欄等を活用して、点検評価ができるとよい。そのように示すことで量だけではなく中身についてもしっかり考えているということをも市民の皆さんに共有していただけるのではないかと。
- ・虐待通報件数等は数値目標がないため記載されていないが、市で把握している実件数が分かるとよい。
- ・外国人児童・生徒やその保護者の支援体制についても実績などに記載があるとよい。
- ・自己評価がほとんど「2」であるため、評価値（1、2、3）の根拠がよくわからない。前年よりも良くなったのであれば、その状況がわかるように示しつつ「3」とするなど、めりはりをつけた方がよい。
- ・計画どおりであったかという評価と、計画量に対して需要があったかという実績をあわせて報告している自治体もある。
- ・適宜の指導や研修案内というレベルではなく具体的に指導して回る際の評価基準やスケールも開発されていて、具体的な基準もできてきている。質が求められるのは当然であり、その向上や改善をする仕組みが具体的にないと質は保障されないのではないかと。

■ 意見をもとにした改善目標

1	「評価基準」を示しつつメリハリのある評価値をつけること
2	量の見込みのない項目も評価根拠や実施状況・需要状況等を示すこと
3	量だけではなく現場や実態に対する評価基準をもち、質の評価も含めること
4	保育園や児童クラブなどは現場や実態をみて評価すること
5	見込みに対する実際の需要の有無も含めること

■ 改善目標に対する改善案

1	「評価指標」欄を新設し、項目ごとに評価指標を示す。評価数値は4段階とし、評価値の集中しやすい中央値について、程度の高低を選択できる形として差異が数値に現れるようにする。加えて「自己評価」を「実施状況」と「需要状況」に分割し、「計画に対しての実施状況」と「需要の状況」を分けて記載する。
2	新たに「質的分析」欄を設ける。分析のもとになる事項を「質的分析（意見・評判・需要）」として各担当課にて記載し、分析の材料として会議に示す。会議における委員の意見等により臨機応変に分析内容を随時更新し、最終的な分析内容を会議にて確定する。ただし、子育て会議で審議を行う項目を絞り込むためにも、全項目を「評価対象事業」と「評価対象外事業」に分類し、「評価対象外事業」については「質的分析」の対象外とする。
3	「質的分析」欄を活用し、会議の中で意見をいただきながら分析内容を随時改善することで現場や実態における質の評価として求められる基準等も検討する。
4	上記「2」「3」の内容を踏まえ、通常業務の中で職員が現地を訪問する際に確認を行うとともに、現場職員の意見の汲み取りも行う。
5	需要の状況が計画や実績と開きのある項目については、「質的分析」欄を活用して、需要について検討する契機とする。

※改善案を反映した「実績報告書（案）」は資料2-2を参照